



## もも だ しい あ 百田 海愛さん



下関から、世界へ。  
KOS日本バンタム級王者獲得から1年足らずで2冠達成  
魂動 M-1日本スーパーフライ級日本王者



▲強い相手と戦いたい。対峙した瞬間、その闘志は迷いなくあふれ出す。

世界一になるまで  
止まらない  
作戦はヒミツ！

昨年11月、ムエタイの「鼓動M-1日本スーパーフライ級タイトルマッチ」で、下関在住のプロキックボクサー百田海愛選手が勝利し、日本王者に輝きました。

日本発祥のキックボクシングとは異なり、ムエタイは、肘打ちや首相撲(相手の首をつかんでコントロールする技)などが認められている格闘技。攻撃の幅が広く、立ち技最強とも言われています。試合は、ムエタイならではの激しい攻防の中で行われました。相手は、ムエタイの本場、タイ出身の「神の階級」と

呼ばれるスーパーフライ級で活躍する選手でした。

勝因となったという技と作戦については「それは絶対に教えられないですね」と苦笑い。指導者・松田栄治さんが考案した「とっておきの作戦」がはまり、見事なKO勝ち。技の詳細は、どうやらヒミツ！のままのようです。

続けた分だけ強くなった

百田選手がキックボクシングを始めたのは、中学2年生の終わり頃。両親が通うジムに、何となくついて行ったことがきっかけでした。

プロを目指す選手としては、決して早いスタートではありません。特別な運動歴がなかったわけでもなく、最初は週1回の練習についていくだけでへとへとだったといいます。

それでも中学3年生になると、選手としてやってみないか、と声を掛けられ、本格的に選手の道へ進むことを決意。所属する誠友塾での練習は週4回。それに加え、松田さんの自宅にあるジムでの練習、ランニングや筋力トレーニング





市報×Instagram連動企画  
フォロワーの皆さんが投稿した下関  
の魅力が伝わる写真をご紹介します♡



♡ Q ③ @bobsaka\_picsさん



♡ Q ③ @kzhama66さん



♡ Q ③ @silver.duckさん

(上から)宇賀本郷駅周辺、特牛駅、亀山八幡宮

## Editor's note

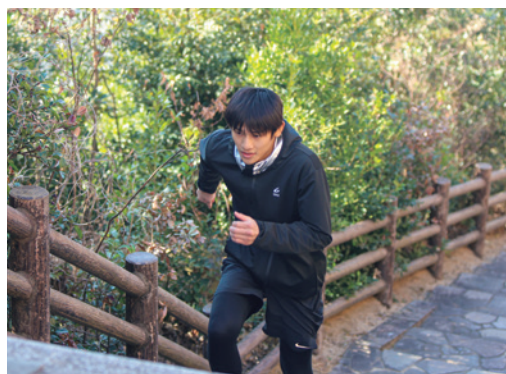
## 編集後記

◆タブレットや生成AIと聞くと、学校が遠い存在に感じられるかもしれません。けれど、取材で出会ったのは、子どもたち一人ひとりの声やつまずきを、より丁寧に拾おうとする先生たちの姿でした。道具が変わっても、学びの主役は子どもたち。学校で起きている小さな変化を、身近な“いま”として感じてもらえたらうれしいです。これからの学びを一緒に見守っていただけたらと思います。(く)

Can You Guess Where This Is ??



▶ 始めたばかりの中学2年生(右)から、日本王者へ(左)。実力も自信も右肩上がり。



◀ 早朝3時からランニングすることもあるのだとか。勝つために、1秒たりとも無駄にはしない。



▶ キックボクシングの日本王者でもある百田選手。松田さんとのパターン練習で、体に叩き込む。

グも欠かしません。「練習を続けることは苦じゃない。練習量の差で相手に負けたと感じる方が悔しかった」と当時を振り返ります。

日々、兄弟子たちに完敗し、何度悔しい思いをしても諦めない姿に松田さんも、「よく辞めなかったと思うほど。与えた情熱だけ、しっかりと結果で返してくれた」と語ります。

そうして少しずつ積み重ねた努力が力となり、18歳でプロデビュー。気が付けば、戦績は今回のタイトル獲得で、12戦11勝(5KO)1敗。その強さが国内トップクラスであることを証明しました。まさに日本に敵なしです。

**頂点に立つその瞬間まで**

百田選手の次の対戦相手は、戦績14戦12勝、体格に優れる韓国の強豪選手です。

試合前には必ず地元の寺で必勝祈願を行い、いつも通り準備を進めるのがルーティン。「やることは何も変わらないです」

王者となってもその表情は落ち着いたまま、次の目標を見据えています。「日本王者で満足するつもりはありません。年内にでも世界王者のベルトを持ち帰ります」

地元・下関から、世界へ。百田選手は次のリングへ向かいます。